原本は上下九寸九分の紙面に拙劣なる楷書を以て各一疏を一紙に書き、四紙を連貼して卷子とせるものにして、各疏の末、年號の行首に於て沙州節度使印（方一寸九分、文字隷書）の墨印を鈐せり。

曹義金或は曹義の名は兩五代史・册府元龜等に見ゆること、既に羅振玉氏の瓜沙曹氏年表（國學叢刊卷十一所收）に述ぶる所なり。此の疏には或は曹議金に作り、或は曹議に作れり。千佛洞題壁（Cf. B. E. F. E-O., Tome VIII, p. 503）及び、ペリオ氏蒐集敦煌漢文書第二六七五にも曹議金に作れるに據れば、義は議の略字なること張議潮が張義潮と書かるると同類なるべし。後唐の長興五年、卽ち應順元年には沙州・瓜州より使を派し、唐に進貢したること、五代史唐愍帝紀及び册府元龜卷九七六に見ゆ。此等の使は曹義金の遣したるものなること疑無き所にして、此の疏中或は東朝の奉使の早く天顏を拜せんことを祈り、或は其の往來の澁滯せざらんことを希ふを見るは、史興少からずと謂ふべし。又疏中には于闐使人の往來安全を祈願せり。瓜州・沙州等が屢于闐回鶻等の貢使に附隨して使を五代諸國及び宋に遣したることは能く知らるる所なれば、此の祈願も或はかかる事情に基づくものとも解せらるべけれど、而も曹氏と于闐との間には、當時更に深き關係の存したるものなるが如し。王國維氏は敦煌千佛洞所出の古畫に題して、「故大朝大于闐國金玉國天公主李氏供養」と記さるるものあるを解して、于闐國王李聖天の女若しくは女孫の、嫁して敦煌曹延恭の婦たりし者の作る所なりとせり（觀堂集林卷第十六于闐公主供養地藏菩薩畫像跋）。天公主李氏を以て于闐王李聖天の女と見るは過る無かるべきも、其の配する所を以て、曹元忠の子延恭と爲すは、未だ確證の存するもの無し。此の疏に天公主と謂ふものも亦思ふに于闐王李聖天の女にして、曹氏最初の節度使たりし議金に配したるものなるべく、其の夫人に先だちて名を擧げらるるよりして考ふれば、當時天公主並びに于闐が曹氏に對して有せし勢力の盛なりし有樣を推測